

デジタル田園都市国家構想交付金事業 担当課による効果検証結果

デジタル田園都市国家構想交付金

事業No.1 「諏訪湖創生推進拠点」を核とした諏訪湖の
魅力向上・発信プロジェクト ……1ページ

事業No.2 保育園ICTシステム導入事業 ……8ページ

デジタル田園都市国家構想交付金事業 効果検証シート

No.	1	担当課	生涯学習課・環境課 (事業主体:長野県)		
交付対象事業名	「諏訪湖創生推進拠点」を核とした諏訪湖の 魅力向上・発信プロジェクト		デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)		
総合戦略での 位置付け	基本方針②観光 “SUWAらしい”があふれる観光地				
地方創生として 目指す将来像	「諏訪湖創生ビジョン(2018年に長野県が策定)」が掲げる20年後の目標である「人と生き物が共存し、誰もが訪れたい諏訪湖」の実現と、諏訪湖を中心にしたSDGsの具現化を目指し、諏訪湖を、「美しく」「豊か」で「持続可能」な公共財として魅力を磨き上げ、積極的に活かしながら、広く内外に情報発信していくことで諏訪地域のブランド力を向上させ、諏訪湖を活かした観光振興を図る。				
地方創生の実現に おける構造的な課題	・諏訪湖を目的とした観光客数は県内主要観光地のうち第3位であるものの、諏訪地域全体の観光消費額は県平均以下と低迷しており、要因として日帰り旅行が大半を占めていることが挙げられる。大都市圏からのアクセスの良さを強みに、滞在型観光に転換する必要がある。 ・諏訪湖においては、行政区域が3市町にまたがり、湖の管理は県が行っている状況から、面的な諏訪湖の観光情報の発信や観光誘客を図るビジターセンター的な拠点が無い。 ・2000年頃よりヒシが大量繁殖し、景観を損ね、悪臭を発生させている。改善には集中的・継続的な研究が必要であるが、県や大学等の様々な機関がそれぞれで研究を行っているため、一元的なデータ活用等が必要である。 ・昨今、水質が改善したことにより、地域住民や子どもたちの間で、諏訪湖に対する関心や諏訪湖に触れ合う機会が低下しており、シビックプライドを持つ住民の養成が課題である。				
諏訪市の 具体的な取組内容	○諏訪市博物館企画展の開催(生涯学習課) 令和5年5月27日から7月17日の期間、「特別展 諏訪湖 -自然・人・未来-」と題した展示会を開催した。会期45日間で1,748名の来館者があった。諏訪湖の歴史に加えて、自然環境や行政の取り組みを紹介した。過去の諏訪湖と人々の関わりを知ることで、多様な視点をもって将来の諏訪湖を考えることが大切であるということを伝えたいと意図した。 旧石器時代からの人類と河川・湖との関わりを示す石器や土器の展示から始まり、江戸時代の浮世絵や屏風・俳諧に見られる諏訪湖の様子を展示。かつて見られた水生植物密集地の「エゴ」についてや、水害と治水の歴史について、写真などで展示した。 長野県諏訪地域振興局の協力を得て、ヒシ対策や希少生物保護の啓発も行った。 ○「すわ大昔フォーラム」開催等(生涯学習課) 令和5年10月29日(日)、諏訪市文化センターを会場に、信州大学理学部教授で諏訪臨湖実験所所長の宮原裕一先生を講師に講演会を行った。43名の参加。演題「諏訪湖ー自然環境の今 45年の定期観測から見てきたこと」と題し、データから分かる客観的な事象として、透明度・貧酸素・ヒシ繁殖などについて説明いただいた。そのなかで、多様性の時代に、誰(人・水・動物・植物)にとってより良い諏訪湖にするかを考えることが大切であるとまとめられた。 教育委員会内で連携し、開催周知や準備・当日運営を行った。長野県諏訪地域振興局の行う「諏訪湖の日」関連イベントに登録して周知を行うとともに、集客の一助として博物館から粗品を贈呈し、同振興局からバッジ提供も受けて配布した。 ○諏訪湖環境保全事業(環境課) ・上川アレチウリ駆除作業 平成26年度より毎年ボランティアを募集し、上川右岸車橋下で実施している。作業に参加していただくことで、アレチウリ駆除の重要性を啓発し、自然環境保全への意識醸成を図っている。 【令和5年度実績】 実施日: R5.6.17 参加者: 17人 駆除量: 31kg ・諏訪湖ヒシ除去作業(トヨタソーシャルフェス) 平成21年度より毎年ボランティアを募集し、新川河口付近を中心に実施しており、平成25年度からは信濃毎日新聞社と共催で「アクアソーシャルフェス(H30よりトヨタソーシャルフェス)」として、学習会とヒシ除去作業の複合イベントとして開催している。また、除去したヒシは堆肥化している。※ R5は悪天候のため作業は中止。諏訪湖の水草についての学習会のみ実施。 【令和5年度実績】 実施日: R5.7.1 参加者 91人 除去量: ーkg ・諏訪湖浮遊ごみ除去作業 平成26年度より諏訪市セーリング協会の協力のもと、毎年実施している。令和4年度より、一般ボランティアを募集し、ボートやカヤックに乗ってごみを回収するというアクティビティ要素を付加した作業とした。 【令和5年度実績】 実施日: R5.9.16 参加者: 60人 除去量: 83kg				
令和5年度交付金事業 実績額	1,005,537	円	令和6年度交付金事業 予算額	-	円

デジタル田園都市国家構想交付金事業 効果検証シート

No.	1	担当課	生涯学習課・環境課 (事業主体:長野県)
-----	---	-----	-------------------------

交付対象事業名	「諏訪湖創生推進拠点」を核とした諏訪湖の 魅力向上・発信プロジェクト	交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)
---------	---------------------------------------	--------	--------------------------------

重要業績評価指標 (KPI)					
指標名	基準値		令和3年度	令和4年度	令和5年度 (計画最終年度)
諏訪地域観光消費額 (R4:前回御柱祭開催時を目標) (R5:前回御柱祭翌年の数値を目標)	目標値		35,417 百万円	39,844 百万円	36,290 百万円
	実績値	35,417 百万円	23,050 百万円	32,582 百万円	7~8月頃確定 百万円
	目標達成度		65.1%	81.8%	
諏訪湖創生推進拠点ホームページ へのアクセス件数(累計)	目標値		0.3 万件	1 万件	3 万件
	実績値	0 万件	0.296 万件	0.5423 万件	0.9171 万件
	目標達成度		98.7%	54.2%	30.6%
諏訪湖に関するイベント等(セミナー、アクティビティ体験等)の開催 回数 (回/年)	目標値		23 回	26 回	30 回
	実績値	20 回	17 回	24 回	34 回
	目標達成度		73.9%	92.3%	113.3%
諏訪湖に関するイベント等(セミナー、アクティビティ体験等)の参加 人数 (人/年)	目標値		2,500 人	3,000 人	4,000 人
	実績値	2,000 人	2,772 人	8,998 人	11,843 人
	目標達成度		110.9%	299.9%	296.1%

※県主体事業であるため、上記KPIは諏訪市単独の数値ではなく、諏訪地域全体を対象とした数値

【生涯学習課】

事業効果	③地方創生に効果があった
判断理由	【定量的な判断理由】 特別展に1748名の入館者があり、1日平均では39名である(比較:5年度実施の蓼科保養学園展75名/1日、藤森栄一展32名/1日)。2回実施した展示説明会には17名の参加があった(比較:蓼科保養学園展25名/2回)。テレビ・新聞等5社で開催の報道があり、周知を図ることができた。講演会の参加者は43名(定員60名)であった(比較:令和4年に同会場で実施の歴史分野の講演約20名、建築分野の講演約30名)。 【定性的な判断理由】 特別展について、報道で開催情報を知った諏訪中学校生徒のふるさと学習で見学があったり、下諏訪町の団体から講演依頼があった。講演会はアンケート結果から理解度が深まり、納得感のある内容であったと考える。感想の一部を紹介すると、「ここ45年間の諏訪湖の変容が理解できた。対策もして良い面と悪くなる面があるので関係関係が難しい。」、「透明度がよくなるにつれてヒシなどの表層植物が増えていくことが分かった。」、「引越して来たばかりですが、これから色々な地域のことを知りたいと思っています。環境についてもできる限り共存できるものを残していきたいと思っています。」など、湖や環境を考える一助になったと考える。

【環境課】

事業効果	②地方創生に相当程度効果があった
判断理由	【定量的な判断理由】 下記指標の数値に貢献することができた。また参加人数においては、市外から計67人の参加者となった。 諏訪湖に関するイベント等(セミナー、アクティビティ体験等)の開催回数:3回 諏訪湖に関するイベント等(セミナー、アクティビティ体験等)の参加人数:168人 【定性的な判断理由】 ・ヒシ除去作業においては、悪天候によりヒシ除去作業は中止とし、学習会のみ開催した。参加者は諏訪市内13人、市外から78人となり、市外78人うち諏訪圏外からの参加は60人となり、地域外から人を呼び込む作業イベントとなった。 ・浮遊ごみ除去作業においては、市内から53人、市外から7人の参加があり、市内在住者が中心のイベントとなっているが、参加者属性を見ると親子での参加が多く、8組18人であった。カヤックというアクティビティ要素を付加することにより子どもの参加も増え、諏訪湖に関心を持ってもらう機会を提供する場となった。参加者からも「カヤックもゴミ拾いもとても楽しめた。また参加したいと思った」、「諏訪湖をもっと綺麗にしたいという気持ちが湧きました」という感想を聞くことができた。

＜事業効果＞ ①地方創生に非常に効果的であった ②地方創生に相当程度効果があった
③地方創生に効果があった ④地方創生に効果がなかった

デジタル田園都市国家構想交付金事業 効果検証シート

No.	1	担当課	生涯学習課・環境課 (事業主体:長野県)
-----	---	-----	-------------------------

交付対象事業名	「諏訪湖創生推進拠点」を核とした諏訪湖の 魅力向上・発信プロジェクト	交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)
---------	---------------------------------------	--------	--------------------------------

【生涯学習課】

今後の方針	⑤予定通り事業終了
判断理由	本事業は企画展および講演会の開催で諏訪湖について興味関心と新たな知識や発見を提供するものであった。さまざまなテーマや内容で展示などを行う博物館としては、今回の実施により一旦終了とする。 ただし、諏訪湖は諏訪市および諏訪地域の核となるもので、周期的に展示その他で歴史や資料の情報発信は行うべきものであると考える。

【環境課】

今後の方針	②事業内容の見直し(改善)
判断理由	・ヒシ除去と浮遊ごみ除去については、諏訪湖と触れ合う機会を創出するイベントを継続的に実施することで、市内・外からの参加者に諏訪湖への興味を持っていただき、諏訪湖環境保全への意識醸成が期待できるとともに、企業や団体と協働で実施することにより民間活力の有効活用につなげていく。船やカヤックによる浮遊ごみ回収は楽しみながらの作業が実現されていることからモデルケースとして位置付け、継続的な参加者には特典を付与することも視野にいれるなど、今後の展開や取組の工夫を図っていく。 ・アレチウリ駆除作業については、現状では単に駆除作業を行っているだけになっているため、浮遊ごみ除去のような楽しみながら取組めるイベント要素を取り入れた内容について検討していきたい。

＜今後の方針＞ ①追加等更に発展させる ②事業内容の見直し(改善) ③事業の継続
④事業の中止 ⑤予定通り事業を終了



チラシ



展示会場全体



地域振興局と諏訪市役所の取り組み紹介



展示解説の様子



報道(NHK長野局)

すわ大音フォーラム特別版・令和5年度生涯学習講座

諏訪湖——自然環境の今

～45年の定期観測から見てきたこと～

10月1日は諏訪湖の日
諏訪湖の「今」について、お話しを



諏訪湖は、遠くの人々から愛され、多くの観光客が訪れる、長野県最大の湖です。それだけに人間活動の影響を受けやすく、1990年代の湖底底質調査結果には、その水質が著しく悪化しました。信州大学理学部・諏訪湖環境教育センター・諏訪湖環境研究所の宮原裕一教授に、諏訪湖の水質や生態系の変化を解説していただきます。まず、「透明度」から、諏訪湖の水質浄化のしくみを解説。次いで、近年諏訪湖で問題となっている「異藻類」について、諏訪湖の異藻類と合わせて解説。さらに、もう一つの大きな問題となっている「ヒシの繁殖」について、諏訪湖の水質の悪化やそのしくみと合わせて解説していただきます。




▲講師 宮原裕一教授
信州大学理学部・諏訪湖環境教育センター 教授
湖環境所

令和5年
10/29 (日) **14:00**～15:30 (祝日13:30)
諏訪市文化センター 第2大会堂
諏訪市南栄町5-12-18

参加料：無料
定員：60名(先着・抽選申し込み制)
申込開始日：10月11日(火)から

問合せ・申込み先：諏訪市博物館
電話：**0266-52-7080** (月曜・初日祭日は休館)
受付時間：午前9時から午後5時(博物館休館日を除く)

参加特典：
令和5年度に
諏訪市博物館オリジナルグッズをプレゼント！
(グッズ内容はお楽しみに！)

お楽しみコーナー！
諏訪湖の魚をフィッシング!!
祝日メダールでやった諏訪湖の魚を釣ろう!!
(子ども向け、第1回大会まで)

託児サービス
希望される方は、10月15日(日)までにお申し込みください。
(未定/定員の入場はできません。)

チラシ



講演会場の様子



講師の宮原裕一教授

・上川アレチウリ駆除作業



・諏訪湖ヒシ除去作業(トヨタソーシャルフェス)



・諏訪湖ヒシ除去作業(トヨタソーシャルフェス) 続き



・諏訪湖浮遊ごみ除去作業



デジタル田園都市国家構想交付金事業 効果検証シート

No.	2	担当課	こども課		
交付対象事業名	保育園ICTシステム導入事業	交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (デジタル実装タイプ)		
事業の実施によって 解決を図る課題	・従来、登降園の管理を目視及びチェック表の記入、欠席・遅刻連絡は電話のみの対応をしており、これらをデジタル化することで、園児の所在等を確実に記録でき、安心安全な保育サービスを実現できるとともに、朝の多忙な時間帯の保護者及び保育所の負担軽減を実現することができる。 ・保護者へのお知らせや各種帳票類は、紙媒体、手書きのものが数多く残っており、これらをデジタル化することにより、紛失の可能性がなくなることや家庭内での共有がしやすくなり、保護者の利便性向上につながる。また、豊富なテンプレートや文例の活用により、保育士の事務負担軽減が図られ、事務作業にあてられていた時間を保育サービスの充実にあてることができる。 ・保育園のデジタル化を推進することで、保育士の事務負担を軽減し、保育士の定着率の向上や新たな保育士の採用につなげ、保育の質の向上を図り、利用者の満足度向上を実現する。				
事業の実施により 将来的に実現したい 地域像	当市においては、令和2年3月に「ひろがる笑顔」ゆめ保育所プラン」を策定し、保育所の適正規模・適正配置及び民営化等の基本方針を定めており、この中で、子どもの数の減少を見据え、将来的には必要なサービス量は確保しつつ、人的環境、物的環境を集約していくことで、子どもの生活圏に適正規模の保育所を確保し、限られた保育資源をより効果的に投資していくことを謳っている。 本事業の実施により、利用者の利便性向上及び保育士の業務改善を図る中で、将来的な人的環境や物的環境の集約化の見通しや、業務改善により保育資源に余力が生じた場合の新たな子育てサービスの検討等を進め、保育サービス利用者が、どの生活圏においても、子どもの豊かな育ちに資する保育サービスを受けられる地域を実現する。				
事業概要 令和5年度の取組	保育園業務システム「コドモン」の導入 【コドモンの機能】 ・園児情報管理 ・(QRコードリーダーによる)登降園管理 ・欠席・遅刻連絡 ・連絡帳 ・お便り配信 ・アンケート ・帳票管理 など 【コドモン導入に伴う取組】 ・クラス担任1人につき概ね1台のタブレット端末の整備を行った。 - また、本補助金による事業ではないが、園内に無線LANを整備し、保育士がタブレット端末を持ち歩き園内各所で業務を行える環境整備を行った。 ・ICT導入へのスムーズな移行に備え、令和4年度中から、各園の主任保育士により業務効率化を検討する組織を立ち上げ、保育現場における業務の見直しを行った。 ・導入業者による保育士へのシステム操作研修を行った。 保育所業務のデジタル化				
令和5年度交付金事業 実績額	16,074,541	円	令和6年度交付金事業 予算額	-	円

デジタル田園都市国家構想交付金事業 効果検証シート

No.	2	担当課	こども課
-----	---	-----	------

交付対象事業名	保育園ICTシステム導入事業	交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (デジタル実装タイプ)
---------	----------------	--------	--------------------------------

重要業績評価指標 (KPI)					
指標名	基準値		令和5年度	令和6年度	令和7年度
【アウトプット指標(活動指標)】 保護者アプリダウンロード累計数	目標値		1,200 ダウンロード	1,600 ダウンロード	2,000 ダウンロード
	実績値	— ダウンロード	1,327 ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
	目標達成度		110.6%	0.0%	0.0%
【アウトプット指標(活動指標)】 システムによるお便り配信数(年間)	目標値		156 通	312 通	312 通
	実績値	— 通	444 通	通	通
	目標達成度		284.6%	0.0%	0.0%
【アウトプット指標(活動指標)】 システムによる保護者アンケート実施数(年間)	目標値		13 回	26 回	26 回
	実績値	— 回	13 回	回	回
	目標達成度		100.0%	0.0%	0.0%
【アウトカム指標(成果指標)】 保育園利用者の満足度 (概ね満足とされる水準を3ポイントとして5段階の評価とする)	目標値		3 ポイント	3.5 ポイント	4 ポイント
	実績値	— ポイント	3.99 ポイント	ポイント	ポイント
	目標達成度		133.0%	0.0%	0.0%
【アウトカム指標(成果指標)】 システム化に係る保育士の満足度 (概ね満足とされる水準を3ポイントとして5段階の評価とする)	目標値		3 ポイント	3.5 ポイント	4 ポイント
	実績値	— ポイント	3.15 ポイント	ポイント	ポイント
	目標達成度		105.0%	0.0%	0.0%

事業効果	②課題解決に相当程度効果があった
判断理由	令和5年度は新機能として「登園・降園時の打刻」「欠席連絡」「お知らせ配信」の運用を開始。保護者の導入による満足度も3.99ポイントと非常に高い結果だった。特に欠席連絡機能については、朝の忙しい時間帯の電話連絡等が不要になったため、「従前の電話連絡と比較し、欠席連絡はコドモンによる連絡が良い」と回答した保護者が94.6%となった。保護者の記載欄「症状」「受診の有無」等があらかじめ入力されることから現場でも朝の電話対応に要する労力が簡素化されている。 他の項目ではお便りの配信数は半年弱でKPIの目標値の284.6%となった。園行事の案内といった保護者への事務的連絡はもちろんのこと、日々のこどもの姿を写真や動画を用いて伝えることが今まで以上に手軽に行うことができています。 一方で、タブレットの操作に苦労している職員も一定数いる。令和6年度は帳票の電子化を予定しているが、これまでの手書き文化が色濃く残っていることに加え、新システムへの慣れ、タブレットへの慣れなどに個人差が出ており、どのように全体の底上げを図っていくかを課題としている。

<事業効果> ①課題解決に非常に効果的であった ②課題解決に相当程度効果があった
③課題解決に効果があった ④課題解決に効果がなかった

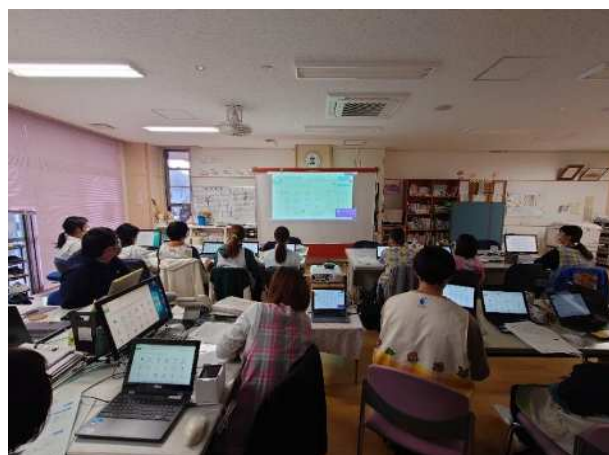
今後の方針	①追加等更に発展させる
判断理由	コドモンの運用に関しては保護者及び保育現場共に満足度向上及び保育の質を高めるため、新たな機能の拡張を検討していきたい。 令和6年度に関しては、現場での運用面を目下の課題と捉え、効率化検討部会員を各園ごと2名に増員した(前年比各園1名増)。今年度から帳票管理を電子化しており、効果的な活用方法を検討してもらったと共に、各園での好事例をフィードバックしてもらい、各園へ横展開していくことで保育士全体のコドモン・タブレット利用全般に係る底上げを図っていく。

<今後の方針> ①追加等更に発展させる ②事業内容の見直し(改善) ③事業の継続 ④事業の中止

①コドモンでできること

緊急連絡	出欠連絡	登降園管理	連絡帳 お知らせ配信	月案週案等の 帳票管理
				
園からの緊急連絡配信、保護者からの出欠や遅刻の連絡はアプリから行えます		QRコードで登園管理	園からのお知らせ、連絡帳はアプリから保護者へ	タブレットで作成した月案週案などを園内で情報共有

②導入に向けた職員研修



③導入時の様子及び新聞記事

